月　日 名前　　／100点

【小4】国語 文章問題　説明文 5

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

友だちには「これ、見て。」と言うのに、先生には「これを見てください。」と言います。同じことをつたえるのに、わたしたちは、相手によって言葉をかえています。どうして、そんなことをするのでしょうか。

ていねいな言葉には、相手を大切に思っている気持ちをあらわすはたらきがあります。「見て。」と言われても、「見てください。」と言われても、たのまれていることは同じです。けれど、「ください」がつくと、たのみ方がやわらかくなり、相手に対する思いやりがつたわります。

では、友だちにもいつもていねいな言葉で話せばよいのでしょうか。そうとはかぎりません。仲のよい友だちに「おはようございます。今日はよい天気でございますね。」と言ったら、どうでしょう。友だちは、何だかよそよそしく感じて、とまどってしまうかもしれません。親しい相手には、くだけた言葉のほうが、心のきょりが近く感じられるのです。

つまり、言葉の使い分けは、相手との間のきょりを表すものだと言えます。ていねいな言葉は、相手を大切にしながら、少しはなれた所に立つ言葉です。くだけた言葉は、そばに立って、かたをならべるような言葉です。

だれに、どんな場面で話すのかを考えて言葉をえらぶこと。それが、言葉で相手とよい関係をつくるための、大切な力なのです。

（この問題のための書き下ろし）

問一　ていねいな言葉には、どんなはたらきがありますか。「～をあらわすはたらき」につづくように、本文から二十字までで書きぬきましょう。

問二　「とまどってしまうかもしれません」とありますが、それはなぜですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　友だちが、「ございます」の意味を知らないから。
イ　親しい相手にていねいすぎる言葉を使うと、よそよそしく感じるから。
ウ　天気の話は、友だちとするものではないから。

問三　ていねいな言葉とくだけた言葉のちがいを、「きょり」という言葉を使って、四十字までで書きましょう。

問四　この文章の三つ目のまとまり（「では、友だちにも」ではじまるまとまり）は、どんなやくわりをしていますか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　先生への言葉づかいのきまりを、くわしく説明している。
イ　文章全体のまとめを書いている。
ウ　ていねいな言葉がいつもよいとはかぎらないことを、例を挙げて説明している。